

はじめに

ここ数年、日本のものづくりの重要性と、ものづくり力の強化が叫ばれている。

平成 18 年 6 月に、「中小企業のものづくり高度化法」が施行され、優れた技術力を持つものづくり中小企業に対して、国として予算面や金融面等、多岐にわたる支援策を講じている。

神奈川県支部においては、平成 16 年以来支部会員による専門家グループにより、ものづくり企業をはじめとした中小企業の個別課題の解決支援ニーズに的確に応えるために、支援ツールとして多様なパワーアッププログラムを開発してきた。一方で、最初から明確な課題を持ち、支援ニーズのある企業と出会う機会は多くはなく、パワーアッププログラムを活用した企業の支援になかなか結び付けられないという問題を抱えている。

そして、潜在顧客とのちょっとした接触機会をもっと活用し、コミュニケーションを深めながら当該企業の問題点や課題を掘り起こしていくことが必要であり、そのためには使いやすい診断ツールの開発の必要性を感じていた。

昨年、製造業向け展示会において、支部では経営相談コーナーを開設し、パソコンを活用した企業向け「企業簡易健康診断」と起業家向け「簡易創業診断」を行ったところ、顧客とのコミュニケーションを深めるツールとしての有効性を確認することができた。

そこで支部として、顧客とのコミュニケーションツールとしての簡易診断ツール及び、診断士がものづくり企業の技術力や経営課題を的確に把握し、有効なコンサルティングに結び付けるための診断ツールとして、「ものづくり診断技法」の開発に取り組むことにした。

この診断技法の開発に当たっては、支部会員による開発プロジェクトを組み、「診断技法の狙い」、「診断技法の構成」、「診断の進め方」、「診断表の設計と使い方」、などについて検討を進めた。診断表の設計については、専門分野別に小グループを結成して作業を行い、設計した診断表を使って実際の企業を対象に診断を行って検証した。その結果をフィードバックして診断表の再設計を行い、「ものづくり診断の進め方や使い方」等の説明や解説を付記するとともに、事例集も含めて、「ものづくり診断技法」として完成させた。今後もさらに、細部についての見直しや、対象技術分野を広げていくことが必要であると考えている。

今後の日本のものづくりの発展に向け、また日本のものづくりを支える技術の高度化に向け、診断士の皆様がものづくり企業を支援する際に、この「ものづくり診断技法」を活用していただけたら幸いに存じます。そして、実際に使ってみて、さらに改良すべき点などについてご指摘をいただきますことをお願い申し上げます。

中小企業診断協会 神奈川県支部
ものづくり診断技法開発プロジェクト
副支部長 松崎 一成